

令和3年度第2回庄原市初任者研修会

令和3年8月17日（火） 帝釈峡博物展示施設時悠館

「庄原市における教育課題を踏まえ、新規採用教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭4名、中学校教諭5名、養護教諭1名】

【講話】「庄原の魅力を創ろう！」

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明人

庄原には、「豊かな自然の中で遊ぶ・学ぶ・育つことができる」「温かく助け合う心がある」「子供が素直でまっすぐに一生懸命である」というよさがある。新成人の言葉に「大好きな庄原に貢献したい。力を尽くして恩返ししたい。」とあった。子供たちのために、積極的な教育活動を行い、庄原の魅力を創ってほしい。

学校は、子供たちにとって「希望」である。子供は、伸びたくて伸びたくてたまらないと思っている。だからこそ、指導者に絶えず自らを磨き、自ら成長していく姿があるかどうか大切である。「指導力＝専門性×人間性＋教養」である。

先の見えないこれからの時代を生き抜くためには、発想豊かに、様々な角度から考えることが必要である。子供たちには、創造力、情報活用能力、コミュニケーション能力が求められる。

良き出会い、良き人間関係を大切に、学校・家庭・地域が一緒に行う教育活動を通して「庄原で学びたい」と思われる教育を創造してほしい。



【講話・演習】「確かな学力を育成する授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 小谷 綾子

○児童生徒に確かな学力を育成する授業をつくるために、学習指導案の作成、改善を行った。

学習指導案を作成する際は、単元の目標を明確にし、児童生徒の姿を捉え、目標達成のために必要な手立てや工夫などを考えて、単元観、児童生徒観、指導観が一貫してつながりのあるものとなるようにする必要があり。



【施設見学】「帝釈峡博物展示施設時悠館」

帝釈峡博物展示施設時悠館 主任 稲村 秀介

○稲村主任の概要説明の後、時悠館の展示見学を行った。



（参加者の振り返りより）

◇庄原市の出身でないため、庄原についてまだまだ知らないことばかりである。庄原で育った子供たちが自分のふるさとに誇りをもって成長するよう、私自身も庄原のことについて学び続けていく姿勢を大切にしたい。

◇子供が進路実現できるよう力を付けさせ、私自身も生徒とともに成長し続けたい。

◇今後、授業改善をしっかりと行っていきたい。ICTの活用や発問の工夫も考えて、よりよい授業づくりに挑戦したい。